

議会報告会開催概要

開催日時	平成 24 年 7 月 4 日（水） 14：00～15：40
開催場所	新橋会館（大広間）
参加人数	14 人
出席議員	月田光明副議長（石炭対策） 秋田慎一議員（座長・議会運営） 山口光信議員（総務文教） 村上和繁議員（経済建設） 宮田 団議員（民生福祉）
質疑応答の内容	<p>問：広報くしろに市の財政状況が掲載されたが、人口が仮に 1 年に 1,000 人ずつ減ると、180 年で釧路市はなくなってしまふ。人口推計が財政の展望にどのように反映されているのか心配であるがどうか。</p> <p>答：市の人口は 11 万人まで減り、それ以降は同程度で推移するとの推計もある。11 万人になれば公債費負担が重くなることは確かである。市は、確実に市債残高を減らすため「返す以上に借りない」原則で財政運営している。次世代の負担を減らすことは、最優先に取り組むべき行政課題であり、議会においても、市民サービスの低下を招かないことに配慮しつつ、時代変化に対応した不断の見直しを行うよう、財政運営についてもチェック機能の責任を果たしていきたい。</p> <p>問：防災に関し、海拔表示などは、道の津波シミュレーションが出なくてもできるのではないか。</p> <p>答：海拔表示は、24 年度中に主要ポイントに表示することになっている。また、津波襲来時の避難については、今回の道のシミュレーションで相当高い津波の予測となり、これまでの計画の抜本の見直しが必要となっている。今後、10 万人が 30 分以内に避難できる場所と経路の確保の検討と、それに基づいた訓練を行ってい</p>

くことになると思う。

問：地域住民が保育所や児童館と一緒にになり市営住宅を避難先とした避難訓練を実施したが、このような取り組みに対し市の防災担当部署の関わりはないのか。

答：市では、東日本大震災以前からモデル地区において、災害時の要支援者をリストアップし、訓練を実施している。市がPRしているが、モデル地区として手を挙げた地区には市が関わっている。

問：市役所の裏に防災まちづくり拠点施設を建設するというが何のためか。津波で1～3階は水没してしまう。

答：市役所庁舎の電気系統と電算データを上階に移転し守るための建物であり、最大5メートルの津波を想定してのものだが、今回のシミュレーションの津波は9.5メートルであり、国・道の補助金の関係も整理の上で再検討が必要になっている。

問：消防署の現場まで防災関係の情報がなかなか伝わっていないように感じるがどうか。また、去年の大津波警報の際に沿岸部でも避難しなかった市民が多くいたとのことであり、足が不自由で避難できなかった人もいたと思うがどうか。

答：市の防災計画は総務部の所管であり、消防は防災会議の一構成機関の位置づけである。組織的には防災計画について答えられるのは総務部となっている。また、災害弱者の避難については、市では地域ごとに対象者をリストアップし地域との協議を進めている。

問：消費税増税に反対する意見書案が否決になったが、8%や10%になると市民生活がどうなるか理解しているのか。ほとんどの病院が赤字になりつぶれてしまうおそれもある。国保や介護保険も保険料が上がり、年金から引かれ、本当に生活に困っている人が多くいる。

答：意見書案は、2月定例会で継続審査、6月定例会で

過半数が反対し否決となり、全員が反対ではなかった。消費税増税については、各会派・党派でそれぞれの地域や支援者への説明責任が求められるものと考えている。

問：フィットネスセンターの跡利用として津波避難施設とする考えが示されている。M O Oは、津波襲来時にエレベーターに水が入らないよう、設備を手動で設置することになっているが、手動で対応できるとは考えられないし、中が迷路のようになった川沿いの施設を津波避難施設に位置づける考え方は理解できないがどうなのか。

答：市では、これまで想定された相当規模の津波に対応できるM O Oのテナントや来館者等の避難施設としての活用を検討したものと理解している。道のシミュレーションを待ってもよいのではないかとの意見もあったが、今後、災害時だけでなく、日常のにぎわいの創出について、市民委員会の意見も聞きながら検討が始まっていく。議会においても、今後は新たなシミュレーションに対応した議論が進んでいくものと認識している。

問：都市経営戦略プランに対し議員個人としてどのような感想を持っているか聞きたい。

答：市の成長戦略に関し、市長がこれまで市民とともに市政を推進してきた中から得たものとして、具体的な方向性や方策をいくつか示してほしかった。それがなく、今後、市民の声を聞いて検討し、まとめていくということについては残念に思う。

問：震災瓦れきを受け入れない理由は風評被害が第一にあるようだが、苫小牧が受け入れれば、同じ沿岸の釧路では風評被害から逃れることはできなくなるのではないか。風評被害を最初に言うことが、東北の人たち

の心にどのように伝わるか考えてほしい。給食は福島県産でも検査して安全であれば口に入れてもよいとしているが、一方で瓦れきは放射性物質を含む可能性があるから受け入れないと判断するのはどのようなことか説明してほしい。

答：議会では、受け入れに賛否両方の立場から質問があった。国では瓦れきに8,000ベクレル以下の放射性物質が含まれることを想定しており、実際に岩手県と宮城県の瓦れきには放射性物質が含まれている事実がある中では、農産物、水産物等の生産都市としては受け入れない、また、市民の安心安全を第一としたときに、自然界にある放射線量以上の放射性物質は持ち込まないというのが市の答えであった。学校給食の食材については、市民の安心のために6月から1都16県産の青果物を検査し、ホームページで結果が公表されている。

また、瓦れきの受け入れについては、地方自治体に最終判断が求められていることに問題がある。市が受け入れずとも近隣で受け入れれば風評被害が懸念され、一自治体で完結する性格のものではない。議会では、国の責任で瓦れき処理の方法を決めることが必要であり、国の処理方針の立て方が基本的に間違っているとの議論もした。意見書案は賛成少数で否決となったが、これから少しでも東北の負担を軽くし、一日も早い復旧・復興に向け、できる限りの応援をするとの認識は、会派・党派に関係なく同じであると思っている。そのためにも国の責任で方向をしっかりと示すよう地方自治体から国へ意見を上げていくことが必要と考えている。

議会への
要望

- 1 もっと市民のところに出かけて市民のことを理解しなければ、本当の市政はできないのではないか。
- 2 防災に関しては、住民の危機管理意識が非常に重要

	<p>であると思う。住民の意識とやる気を引き出すよう、議員から理事者側に叱咤激励してほしい。</p> <p>3 市役所職員の活力・能力を引き出すのも議員の役割であり、頑張ってもらいたい。</p>
市への要望	<p>1 広報くしろに市の財政状況が掲載されたが、財政の各種指標を掲載してほしい。また、一般会計歳出予算内訳での公債費と目的別歳出での公債費の金額が異なる理由を知らせてほしい。</p> <p>2 震災瓦れきの処理は国に責任を持ってもらうべきで、市の判断は正しいと思う。受け入れないとのことを今後も守るよう市長へ手紙を書こうと考えていたが、このことを市長へ伝えてほしい。</p> <p>3 釧路の放射線は総合振興局の庭の1メートルの高さで測定しているが、地域で国と道の測定結果は異なっているようであり、市でも対応してほしい。</p>